

症例 2

左上下大臼歯4本  $\begin{array}{c} \overline{6\ 7} \\ \underline{6\ 7} \end{array}$  を抜けたまま放置したため、引き起こされた顎関節症とそしゃく回復を、インプラントを用いて治療した症例

53才女性

残存歯は  $\begin{array}{c} \overline{7\ 5} \\ \underline{7\ 5} \end{array}$ 、 $\begin{array}{c} \overline{4\ 5} \\ \underline{6\ 5\ 4} \end{array}$  は3mm前後動揺している。初診時、左上下奥歯2本ずつ

$\begin{array}{c} \overline{6\ 7} \\ \underline{6\ 7} \end{array}$  が喪失状態で、左右の顎関節症状(開口時、左顎関節部の引っかかり、雑音、痛み、両首筋と両肩凝り)を認めた。症状は奥歯のない左側の方が強い。前歯の正中線も左にずれている。入れ歯は用いたくないとの御希望により最初に、左上下奥歯 ( $\begin{array}{c} \overline{6\ 7} \\ \underline{6\ 7} \end{array}$ ) に2本ずつインプラントを埋入。

インプラントと顎の骨がゆ合する3か月後に仮歯4本を装着。長期に左奥歯を入れてなかったために、下顎が左側後方にずれて顎関節症状があるため、ソフトスプリントを用いた下顎骨顆頭の3D(三次元)復位治療開始。

$\begin{array}{c} \overline{6\ 7} \\ \underline{6\ 7} \end{array}$  仮歯と  $\begin{array}{c} \overline{4\ 5} \\ \underline{7\ 6\ 5\ 4} \end{array}$  に乗せたダイレクトスプリント(食事ができるタイプの固定式スプリント。光重合レジンで行う。)の咬み合わせの調整を行い、左右バランスを合わせながら、下顎骨顆頭を右側前方へ三次元誘導を行っていく。

ソフトスプリント(アクアライザーでもよい)の作用で、そしゃく筋の筋肉がリラックスするため、自然に下顎が右側前方へ復位誘導されていきます。

一週間に一度のペースで、かみ合わせの調整(左奥歯の挙上と、右側小臼歯部のダイレクトスプリントの削合、および左右奥歯の咬合調整)を行っていく。

この症例では4回の調整で、顎関節症状が、消失したので、その下顎の位置での咬み合わせが、顎関節の負担がない咬み合わせということになります。直ちに、左右のダイレクトスプリントと同じ高さの仮歯10本

$\begin{array}{c} \overline{4\ 5\ 6\ 7} \\ \underline{7\ 6\ 5\ 4\ 6\ 7} \end{array}$  を装着。

後はこの仮歯と同じ最終補綴物(かぶせ物)を順番にいれていきます。(右に合わせて左、左に合わせて右という順番)  $\begin{array}{c} \overline{4\ 5\ 6\ 7} \\ \underline{7\ 6\ 5\ 4\ 6\ 7} \end{array}$  に咬合再構成された補綴物(連結冠)を装着して終了。治療後の咬合圧下を防止するため、睡眠中のナイトガード(ソフトスプリント)もお渡しする。